学校番号	1013

令和２年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２	年次	２年
使用教科書	「高校生物基礎　新訂版」　（実教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物の基本的なしくみを理解する。
自身を含めた身の周りの生物との関係を考える。
実験を通して理解を深めるとともに、科学的な探求方法を知る。

２　学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を習得する。目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に着ける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の多様性と共通性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	ノート･プリントの記述 授業・実験中の態度 授業・実験中の発言 課題への取組み 出席状況	ノート･プリントの記述 授業・実験中の発言 探究活動の取組内容 定期考査の結果	実験中の態度 実験結果とその記録 考察内容	ノート・プリントの記述 小テスト、定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				.単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	生物の特徴	生物の多様性と共通性	○	○	○		a.生物の多様性と共通性を理解できる。 細胞は全生物共通であると理解できる。 b.生物の共通点を考察・表現できる。 c.試料採取・染色等、光学顕微鏡観察技能を習得している。	学習状況 探究活動 ノート プリント 実験 定期考査
		細胞とエネルギー	○		○	○	a.ATP は全生物共通であると理解できる。 c.酵素作用の結果を導き出せる d.生命活動に必要なｴﾈﾙｷﾞｰを．呼吸や光合成から得ていることを理解している。	
2学期	遺伝子とその働き	遺伝情報とDNAの分配	○	○	○	○	a.DNA の形質とその研究史を理解できる。 b.DNA の複製･分配を考察できる。 DNA の分子模型を作れる。 c.DNA を生物組織から抽出できる。 d.ｹﾞﾉﾑ･遺伝子･染色体･DNA の違いが解る。	学習状況 探究活動 ノート プリント 実験 定期考査
		遺伝情報とﾀﾝﾊﾟｸ質合成	○	○		○	a.DNA 塩基配列情報からタンパク質が合成できることを理解できる。 b.mRNA の暗号表からｱﾐﾉ酸配列を考察できる。 d.ｾﾝﾄﾗﾙﾄﾞｸﾞﾏ(転写・翻訳)を理解している。	
	生物の体内環境とその維持	体内環境維持のしくみと免疫	○			○	a.体液の調節,肝臓・腎臓の働き,自律神経やﾎﾙﾓﾝによる調節,免疫について理解できる。 d.体液の調節,肝臓・腎臓の働き,自律神経やﾎﾙﾓﾝによる調節,免疫について理解している。	
3学期	生物の多様性と生態系	植生と遷移	○			○	a.　陸上の様々な植生の特徴と、長期的変化や地域的差異を理解できる。 地球規模での物質循環･ｴﾈﾙｷﾞｰの流れを理解できる。 b.　生態系保全の重要性を生物多様性維持の視点から考察できる。 d.遷移,ﾊﾞｲｵｰﾑ,物質循環･ｴﾈﾙｷﾞｰの流れを理解している。	学習状況 探究活動 ノート プリント 実験 定期考査
		気候とバイオーム	○			○		
		生態系と物質循環	○	○		○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。